

令和5年9月20日

豊田市長 太田 稔彦 様

末野原地域会議 会長 清水 邦雄

末野原地域会議 提言書



第9期末野原地域会議委員

1 はじめに

(1) 第9期末野原地域会議委員

会 長	清水 邦雄			
副会長	伊藤 俊満			
委 員	鈴木 隆一	深津 貴彦	神谷 幹樹	深津 三洋
	下川 大輔	清水 隆幸	清水 昇	清水 浩之
	安斎 久美	板倉 一雄	五十嵐久美	板倉 孝延
	纈纈 明美	鶴田千江子	(鶴田委員の任期は令和5年3月末まで)	

※順不同・敬称略

(2) 末野原地域の範囲



(3) 末野原地域概要

末野原地域は豊田市の南部に位置し、東を矢作川、西を家下川に囲まれ、南から北へ向かって標高が徐々に増す地形をしています。また、北部のやや高台の丘陵地に茶畑を有するなど田園地帯にありながらも、北部を中心に都市化が進み、商業地や都市基盤が比較的整っている地域です。

交通網の面では、伊勢湾岸自動車道の豊田東インターチェンジや上郷サービスエリアのスマートインターチェンジにより、全国へつながる交通の要衝となっており、古くからの文化を継承しながらも、新しいまちへと変貌しています。

【主な都市基盤】

構 成	豊栄町*、明和町*、渡刈町、幸町、鴛鴨町、永覚町、永覚新町、御幸本町、大林町 (*一部他の地域に属す)
教育施設	寿恵野小学校、大林小学校、前山小学校(一部)、末野原中学校、豊野高校、永新こども園、大林こども園、渡刈こども園、藤藪こども園、寿恵野こども園、林丘幼稚園
公共施設等	末野原交流館、豊寿園、末野原運動広場、渡刈クリーンセンター、環境学習施設 eco-T、みなみ福寿園、末野原交番、末野原分署 など

『住民が交通事故にあう心配のない思いやりにあふれたまち』を目指して

(1) 背景、課題

末野原地域は南北に国道や県道の幹線道路が通り、豊田東インターチェンジや上郷サービスエリアのスマートインターチェンジもあることから物流の拠点施設も増え、大型貨物乗用車等の運送車両も多く走る非常に交通量の多い地域です。

このような交通事情の中、2022年は年間96件の交通事故が発生し、そのうち、人対車が13件、自転車対車が11件ありました。車対車も含めた交通事故発生件数は市内ワースト上位に入っており、交通安全対策の必要性が高まっています。また、令和4年度地域会議アンケートの「末野原地域で住みまちづくりを推進するために今後必要な取組」の中で交通安全が2位となっており地域住民も高い関心を持っていることから、交通安全対策は末野原地域で重要な課題と言えます。

さらに、事故が発生した際に大きな被害になりやすい人対車及び自転車対車に焦点を絞って末野原地域の事故の傾向を分析したところ、人対車では道路横断中の事故が多く、自転車対車では交差点等での出合頭の事故が多いこと、人と自転車のどちらの場合においても信号のない場所でほとんどの事故が起きていることがわかりました。その原因の一つとして、通勤時の渋滞回避のため、道幅が狭く信号のない交差点が多い生活道路に自動車が流入していることがあげられます。

そのため、特に道路横断時と交差点における交通安全対策と自転車マナー等を始めとした地域住民の交通安全意識の向上を図ることが課題の解決に繋がるのではないかと考えました。

(2) 目指す姿

私達は、住民が交通事故にあう心配のない思いやりにあふれたまちを目指して、事故の際に被害者となりやすい『歩行者及び自転車の交通事故ゼロ』に取り組みます。

(3) 市に求める取組

課題解決に向けた必要な取組を次のとおり自動車、自転車、歩行者に分類しました。

▶自動車に対する取組

- ・運転者が横断歩道や交差点で歩行者等にいち早く気付いて減速や停止をするために、スピード抑止効果のある路面表示や、信号のない横断歩道でドライバーが横断者を視認できる道路環境の整備
- ・運転者が歩行者や自転車の動きを理解し危険予測の向上を目的とした交通安全教育の推進

▶自転車に対する取組

- ・出合頭の事故を防ぐため、交差点の手前で減速や停止を促す交通安全施設等の整備
- ・自転車利用者の自転車の交通ルールの正しい理解と、マナー向上を目的とした交通安全教育の推進

▶歩行者に対する取組

- ・信号のない横断歩道において、歩行者の存在を自動車に認識させるための交通安全施設及び安全な歩行空間整備
- ・子どもを交通事故から守るため、通学路における危険箇所の早期改善と適切な維持管理
- ・歩行者が自動車からどのように見えているか、自身の動きを振り返り交通安全意識の向上につなげるための交通安全教育の実施
- ・地域の交通安全に対する課題に興味を持ち、学ぶことができる交通安全教育の実施

これらの取組のうち交通安全施設や道路環境の整備については、末野原地域の交通事故データ及びヒヤリハット体験データを分析して交通安全対策の実施箇所を選定し、対策の効果検証を行ったうえで、より事故抑止に効果的な策を講じることを求めます。

(4) 市と地域の共働の取組

住民誰もが事故にあう心配のない思いやりにあふれたまちにするためには、市と地域住民が一体となって課題に取り組まなくてはなりません。私達一人ひとりが交通安全の課題を自分ごととして捉えて行動していくことが安心安全な地域づくりに繋がると考え、次の行動を推進します。

- ・子ども達の登下校を助け、交通安全意識を育むために、登下校時の見守り活動を実施し通学路の安全確保に努めます。
- ・通学路において危険箇所を見つけたら、学校等関係団体との情報共有と注意喚起に努めます。
- ・横断歩道においては「とまってくれてありがとう運動」を推進し、歩行者の横断歩道横断時の安全確認の習慣づけと、ドライバーに対し交通安全意識の高い地域であることをPRして安全運転を促します。
- ・家庭や職場等において「車に気をつけて」、「安全運転を心がけて」等出かける前の声かけ運動を実施し、地域全体の交通安全意識を高めます。
- ・地域で交通安全活動に取り組む人達を奨励し、誰もが気軽に交通安全活動を実践できる風土を作ります。
- ・市が実施した取組については、地域に積極的に周知し、実践するよう働きかけます。

(5) 具体的なアイデア

(3) 及び(4)の取組について、末野原地域会議の具体的なアイデアは添付資料のとおりです。事業計画立案時の参考としてください。